

デジタル活用の推進に関する協定をインテル株式会社および東京情報大学と締結します！
～未来のまちづくりに向けて、3者の資源、ノウハウをデジタルの力で有効活用～

千葉市とインテル株式会社および東京情報大学は、デジタル活用の推進に関する3者連携の協定を締結しますので、お知らせします。

また、同協定の締結式を行いますので、併せてお知らせします。

1 協定締結の背景・目的等

令和6年3月に千葉市とインテルが包括連携協定を締結し、持続可能なまちづくりに向けた取り組みを進めているところです。

また、東京情報大学では、情報社会の未来を切り開くため、新たな研究拠点として共創ラボを設置し、eスポーツを通じたSTEAM教育の推進や、産学官連携にも積極的にアプローチし、研究成果の実用化や社会実装を目指しています。

このたび、デジタル人材の育成とともに、活力ある地域社会および情報社会の形成ならびに市民サービスの向上を図るため、千葉市、インテル、東京情報大学の3者連携による協定の締結を行い、産学官連携のもとデジタル活用を推進し、持続可能なまちづくりを共に目指します。

2 連携事項

- (1) デジタル活用の推進に資する社会実装および地域活性化等に関する研究の推進に関すること
- (2) デジタル人材の育成に関すること
- (3) eスポーツの振興および活性化に関すること
- (4) その他、目的を達成するために必要な事項に関すること

3 協定に基づき予定される主な取り組み

- (1) eスポーツの振興および活性化に関すること
 - ・高校生向けeスポーツ東京情報大カップの開催
 - ・高校生、大学生向けeスポーツとSTEAM教育を学ぶ特別講義の実施
- (2) デジタル人材の育成に関すること
 - ・教職員向け研修の開催
 - ・職員向け研修の開催

4 協定締結式

(1) 日時

令和6年7月11日(木) 15:00～15:40

(2) 場所

市役所高層棟4階 幹部会議室

(3) 出席者

インテル株式会社 事業統括部長 島田 晋作 様

東京情報大学 学長 ぬのひろ 布広 えいじ 永示 様

千葉市長 神谷 俊一

<参考>

1 インテル株式会社について

(1) 概要

インテルは業界のリーダーとして、世界中の進歩を促すとともに生活を豊かにする、世界を変えるテクノロジーを創出しています。ムーアの法則に着想を得て、顧客企業が抱える大きな課題を解決する半導体製品を設計・製造し、その進化に向けて日々取り組んでいます。クラウド、ネットワーク、エッジ、あらゆるコンピューティングの機器のインテリジェント化によりデータの価値を最大化し、ビジネスと社会をより良く変革します。

©Intel Corporation. Intel、インテル、Intel ロゴ、その他のインテルの名称やロゴは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

(2) 千葉市とインテル株式会社とのこれまでの連携事例

- ・千葉市動物公園での混雑状況の可視化・来園者予測等の実証
- ・高齢者eスポーツ体験・VALORANT世界大会の開催支援
- ・千葉市の4つの地域資源のプロモーションの支援
- ・職員向けのデジタル人材育成研修の実施 ほか

2 東京情報大学について

(1) 概要

1988(昭和63)年、国内で大学名に「情報」を冠した初の私立大学として学校法人東京農業大学により設立されました。建学の精神は「未来を切り拓く」、教育理念は東京農業大学の実学精神を継承した「現代実学主義」です。千葉市若葉区に所在するキャンパスでは、大学院総合情報学研究科(博士前期課程・博士後期課程)、総合情報学部、看護学部において約2,000名の学生が学んでいます。

総合情報学部は、「情報システム」、「データサイエンス」、「情報メディア」という3つの学系で構成された選択性と専門性を兼ね備えた学びが特色です。看護学部は「看護」×「情報」で地域包括ケアシステムを支える情報に強い看護師を育成しています。

総合情報学部には、ビッグデータの応用研究を担う「先端データ科学研究センター」、看護学部には健康寿命の延伸などのヘルスケアの実践研究と地域の絆づくりに取り組む「ヘルスケア実践研究センター」を設けています。さらに、2024年度には「共創ラボ」を新設し、教育研究の強化および産学官連携による地域課題の解決を推進します。

(2) 千葉市と東京情報大学とのこれまでの連携事例

- ・「若葉区民まつり」の会場貸し出し
- ・「ちばActive!」(情報Webサイト)の開発・運営
- ・市民公開講座の共催
- ・シティセールスビデオの作成 ほか